

○議長（茅沼隆文）

それでは、日程第2 認定第3号 決算認定について（下水道事業特別会計）の質疑を行います。質疑は歳入歳出全般にわたり行います。質疑をされる際は、ページを明示してください。

それでは、質疑をどうぞ。

2番、山田議員。

○2番（山田貴弘）

2番、山田貴弘です。決算書204、205ページ、使用料及び手数料で下水道使用料ということで、これずっと何年か前に下水道工事をして接続ができてるのかということで、ある病院ですね、名前言って良いのかな、白鷗医院の指摘をしました。町長とともに、接続を促すように進めていってくれということでいっていくところなのだが、ここら辺の使用料が、今回、29年度の歳入の中で反映されているのかどうか、お聞きしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝己）

山田議員の質問にお答えします。山田議員の言われました病院につきましては、平成27年度に工事をやっています、そちらのところで接続ということで、その次の年の28年度について、接続の工事がされなかったということで、何回か折衝を受けています。その理由として、今、病院でメインで行っている透析の関係の出入り口の確保というのが、下水道工事をやるためにできない。その辺の計画を立ててから、接続をしたいということで、その次の年28年度工事を行えなかったということで、その後、予算的なものという、29年度につきましては、私のほうも2回折衝をして、早く接続をしてほしいという、投資効果、基本的にはそちらの病院で早く接続をしたいという意見があったのが、投資効果が得られないということで御説明をさせていただきましたけれど、まだ、白鷗医院からは、お金の面で、工面がまだできないというのが、1点答えがあります。そのために、29年度については、まだ工事をできないというような、ちょっと回答がされていて、まだ、接続はまだしていない状況でございます。

○議長（茅沼隆文）

山田議員。

○2番（山田貴弘）

2番、山田貴弘です。歳入のほうで反映されていないということで、がっかりだなという、やはり設備投資をした中で、それでもとがとれるとは言わないですけども、順番を間違えたんだという結果しか、それだと出てこないの、それは早く解消していくという、これがまだ市街化区域だったら、自分もまだ言わないのですよ。市街化調整区域に、そういう資本投下をしたわけですから、それなりの根拠があって、その先ほど言うように歳入で、下水道使用料に反映されていかなけれ

ばいけないではないのかなという部分では、ちょっとこう読みを間違えたというところが、結果として29年度の決算でもあらわれたのだなという部分がありますので、そこら辺、2回いつているという答弁をいただきましたが、その2回の中に、町長がどういう絡みをしているのかというのと、部長でも良いが、どういう絡みをしているのか、そこら辺の対策的な部分、どう考えているのか、答弁よろしく願います。

○議長（茅沼隆文）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（石井 護）

山田議員の御質問にお答えいたします。まさに今おっしゃられるとおりで、ただ、下水の計画の中には、一応調整区域も含んだ中での計画という中で行っています。市街化区域は御案内のとおり、100%までいっていないのですが、ほぼやり尽くしたところがありますので、北部の調整区域か、南部の調整区域なのかという形には、もうなっているという状況はあるのですけれども、ただ、議員がおっしゃられるとおりで、やはり工事した後、接続をしていただかないと、まして病院ですから、そういう言い方はあれかと思うのですけれども、大口というか、大きいには大きいですから、非常にそこについては、今後、早急に努力をして、接続できるように頑張っていきたいと思えます。御理解ください。

○議長（茅沼隆文）

3番、湯川議員。

○3番（湯川洋治）

3番、湯川です。ちょっと細かいことで大変恐縮なのですけれども、質問させていただきます。下水道事業、決算書204ページ、説明資料90、91ページです。指定工事店指定手数料についてすけれども、せっかくなつくっていただいた説明資料、大変な努力をされてつくっていると思うのですけれども、内容を見ますと、前年度より2件増えて、1万円減ということになっています。それは明らかに間違えだと思うのですね。前年度より2件増えて、1万円減、2件増えれば、1万円増である。

○議長（茅沼隆文）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝己）

議員の質問にお答えします。2件増ということで、これはトータルの件数で、平成28年度よりも2件増になっておりまして、その中で、新規、更新、再交付という中で、おのおの収入手数料が違いますので、そちらの関係で件数は増えているけれども、収入のほうは1万円減になってしまったという。

○議長（茅沼隆文）

湯川委員。

○3番（湯川洋治）

大変細かいところ、分からなかったもので、文字を見ただけで判断してしまったの

ですけれど、これ全般的に言えると思うのですけれど、私、議員になって、4年目の決算審議をやっていますけれど、これは下水道事業、一番ミスが多い。やはりこれ大変な努力をしてやられているのだけど、ほかの事業は少ない事業で職員でやられているのですけれど、あまりにも数が多過ぎるということで、ぜひ、これは我々議員も、これは前もってわたされますので、前もってわたされている以上、責任持ってチェックする必要があるのですけれども、やはり少ない職員でやられているから大変だと思うのですけれども、ぜひ、間違いのないようにしてほしい、よろしくをお願いします。

○議長（茅沼隆文）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（石井 護）

大変申しわけなく思っております。今後、気を付けていきたいと思えます。また、この記載につきましては、説明のほう、今後、分かったような、分からないようすけれども、新規と更新と再交付、それぞれ単価が違いまして、トータルでは2件増えているのですけれども、要は単価の高いものは減っていて、安いのが増えているという結果で金額としては減、記載をもう少し工夫をしたいと思えます。

○議長（茅沼隆文）

ほかに質疑ございませんか。

5番、石田議員。

○5番（石田史行）

5番、石田史行でございます。決算書204ページ、205ページの説明資料90ページ、91ページ、下水道使用料のところ、これも念のため伺うのですけれども、前年度比901万7,000円減、3.7%減ということで、結構な金額が減ってるわけでございますけども、この減の要因を確認させていただきます。

○議長（茅沼隆文）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝己）

石田議員の質問にお答えします。下水道使用料につきましては、一般家庭と企業ということで、大きく二つに収入の種類が分かれています。その中で企業の使用料というものが、平成29年度は、平成28年度に比べて減ってしまっている。一般家庭については微増ということで件数的に増えているものですから、増えているのですけれども、やはり企業というものが、大体開成町の下水道使用の中の5分の2以上を占めている中で、その企業の排水が減ってきてしまったということで、使用料が減っている原因でございます。

○議長（茅沼隆文）

石田議員。

○5番（石田史行）

減の要因を説明いただきました。私の肌感覚では、この年度に企業が1社増えて

いますよね。にもかかわらず、減になっているというのは、ちょっと解せないところがあるのですけれども、もう少しその辺を説明いただけますでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝己）

石田議員の御質問にお答えします。企業が1社ということでございましたけれども、こちらについては、みなみ地区で進出した企業と想定した中では、そちらの企業につきましては、平成29年度に工場完成等しておりますけれども、下水道へ排水されたのは、平成30年度、今年度から排水ということで、そちらの排水量というのは、29年度には影響されていません。

○議長（茅沼隆文）

ほかに質疑ございませんか。

山田議員。

○2番（山田貴弘）

2番、山田貴弘です。関連質問になってしまいますが、一般が増えていると言ったのですね。企業が減っているということは、これは水道会計を見てみると、水道料の改定が行われたということで、使用料は上がってはいるのですが、そこら辺の部分でいくと、そうすると、地下水の取り出しが減ったのかなと推測できるのですよ。そこら辺は個々の搬出のメータ機があるのですよね。そこら辺は、チェックは当然しているのだと思うのですけれども、要は景気動向の中で、出荷が減ったという判断で良いのですか。企業が生産が落ちたと見れば良いのですか。そこは再度、聞きたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝己）

山田議員の御質問にお答えします。まさしく下水道につきましては、水道水から算出した下水道使用料と地下水をくみ上げて、そちらを下水道使用料に反映した料というのがあります。こちらにつきましては、特に地下水をくみ上げているというのは、企業系がほとんど地下水をくみ上げています。企業としての業績としましては、こちらで聞きますと、業績的には良いと聞いております。ただ、機械の水の使用について、節水という形で、水をなるべくリサイクルして使わないとか、水の使用を抑えるというような企業の努力が平成29年度ありまして、下水道使用料が減ってしまったという状況でございます。

○議長（茅沼隆文）

ほかに質疑ございませんか。

10番、星野議員。

○10番（星野洋一）

10番、星野です。決算書206、207ページ、説明書の90、91ページ、

雑収入の雑入の中の流域下水道事業建設費負担金精算金というところで、小田原市、松田及び箱根町流域加入に伴う負担金の戻りということでしょうか。その辺のところ、済みません。もうちょっと詳しく教えていただけますでしょうか。

○上下水道課長（熊澤勝己）

議員の質問にお答えします。流域下水道事業建設費負担金精算金ですけれども、こちらにつきましては、現在、酒匂川流域下水道処理区域の市町が、3市7町ということで、3市につきましては、小田原市、秦野市、南足柄市、7町につきましては、大井町、山北町、中井町、松田町、開成町に加えて、二宮町と箱根町が流域下水道の処理ということしております。この中で、小田原市の一部と松田町、箱根町が、平成17年度に、酒匂川流域に編入をされ、加わったという形になっております。この中で昭和48年から平成18年に、そちらの小田原市と箱根町と松田町以外が、酒匂川流域下水道に要した建設費というものを負担しておりました。加わったことによって、1市2町が、建設費をさかのぼって負担をするという中で精算金というのが発生しております。こちらの中では、毎年の建設費負担金の中から、その精算金を差し引いた形ということで、建設費負担金が算出されていましてけれども、平成29年度につきましては、予定されていまして建設工事、流域下水道なのですけれども、こちらが国庫補助金等の確定額が大分減ってしまったという中で、その年の負担金というものは払ったのですけれども、そちらが建設費負担金が多くもらい過ぎてしまっているという中で、生産された額の差し引きが、平成29年度に精算金という形の中で、各市町に精算されたという状況でございます。

○議長（茅沼隆文）

ほかに質疑ございませんか。

（「なし」という者多数）

○議長（茅沼隆文）

それでは、ここで認定第3号 決算認定について（下水道事業特別会計）の質疑を終了いたします。ここで暫時休憩いたします。

再開を10時15分といたします。

午前10時01分

○議長（茅沼隆文）

再開いたします。

午前10時15分

○議長（茅沼隆文）

それでは次の日程に入る前に、先ほどの答弁の追加がありますので、上下水道課長の発言を許可いたします。

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝己）

申しわけありません。先ほどの石田議員の御質問の中で、みなみ地区の企業の排水ということで、先ほど平成30年度から料金の徴収ということで、私から回答し

ましたけれども、平成29年度、1期分、徴収をされています。平成30年1月末に稼働という形ですので、そちらのところが、平成29年度は、約170万円ほど、使用料としては、平成29年度入っております。